

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	渡部 幸奈
授 業 の 概 要				
本科目は心理学の概論授業として、基本的な概念や理論を学ぶことを目的とする。日常生活の中で経験される行動と心理学の基礎知識を関連づけながら、人間の行動を形成している諸側面について概説する。				
授業終了時の到達目標				
心理学における基本的な知識を習得すること。 自己及び他者の心や行動を心理学的知見に基づいて理解し、説明することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
回	テ ー マ	内 容		
1	受講ガイダンス/心理学とは	授業の進め方について説明する/心理学の歴史・領域・対象・研究法について学ぶ		
2	その人らしさの心理学	パーソナリティの理論と測定法について学ぶ		
3	ものの見え方と記憶の仕組み	知覚情報の処理システムと記憶の構造について学ぶ		
4	個人と環境	立場や環境が人の心理や行動に与える影響について学ぶ		
5	学習と行動	学習理論と、その応用としての行動変容について学ぶ		
6	行動変容法	行動変容に関する理論と技法について理解する		
7	ストレスとコーピング	ストレスの仕組みと対処法について学ぶ		
8	まとめと期末試験	これまでの振り返りと期末試験を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
パワーポイント 配布資料		期末試験	100.0%	グループワークを取り入れていきます。授業への積極的な参加態度を評価しますので、意欲的に取り組んでください。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
キャリアデザイン		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
「自分の意志で社会に貢献できている」と感じる未来に向けて、「ゼロから1を生む」考え方の学びにより自分の可能性に気づく機会を提供します。 授業での経験から、将来の就職活動だけでなく、人生における自身の行動について考えていきます。				
授業終了時の到達目標				
世の中で求められる「自身の考えを組み立て、表現する力」を身に付ける。 身につけた力を就職活動や自身のキャリアに活かす。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
毎回の授業後、テーマごとに日常生活の中の不便さや問題について目を向ける習慣をつける。 気づきやアイデアなどは。書き留める習慣をつけておく。				
回	テ ー マ	内 容		
1	キャリアデザインとは	仕事をしていく中での、自らの目標や理想、なりたい姿、モデルを設計、実現させていくプロセスについて		
2	物事の捉え方を変える力	ひとは、自分が「常識」と感じているものに対して捉え方を変える力を持っている。 どのような力を持っているのか、w o r kしてみよう。		
3	夢ややりたいことを叶える人とは	ゴールを具体的に決める 「期日」「内容」を具体的に決める力		
4	具体的なゴールから、逆算する力とは	「逆算」を体験する。 ゴールを決めて、そのために必要な事柄を逆算で「スタート」まで決めよう。		
5	「目的」を持つ、「目的」の設定	自分の人生だけでなく、社会未来についても目的を設定し、実現できることを理解する。		
6	歯科衛生士の先輩の話を聞こう	OGを招いて、現在までの歯科衛生士の道のりを聞いてみよう。 業務の内容、やりがいとは何かを考えてみる。		
7	自分の未来について	将来どのような歯科衛生士を目指すのか。どんな分野で活躍したいのかを考えw o r kしてみよう。		
8	レポート課題	この授業で学んだことを中心に、これからの将来どのような歯科衛生士が必要とされるのか、またどのような歯科衛生士になるのかをまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
口腔機能学		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	佐藤 央一
授 業 の 概 要				
1. 口腔解剖学・生理学に基づいた口腔機能の理解 2. 臨床現場で求められるであろう知識の習得				
授業終了時の到達目標				
1. 発話、咀嚼嚥下についての口腔機能を述べることができる 2. 臨床現場での口腔機能を観察、評価することができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ	内 容		
1	1. 歯と口腔の感覚 確認テスト	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
2～3	2. 味覚と嗅覚 確認テスト	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
4～5	3. 咬合と咀嚼・吸綴	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
6～8	4. 嚥下と嘔吐 確認テスト	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
9～11	5. 発声 確認テスト	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
12～13	6. 唾液 確認テスト	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
14	まとめ	・ 基礎的な機能面の理解と臨床現場での活用について学ぶ ・ 講義終了時または翌週の講義はじめに確認テストを実施し、知識習得の確認を行う		
15	期末テスト	期末テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 ゼムリン言語聴覚学の解剖生理原著第4版 臨床家のための口腔顎顔面解剖アトラス		確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科放射線学		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	選択	久保 典子
授 業 の 概 要				
エックス線撮影の原理とそれに伴う被曝を理解する。 患者撮影の準備やフィルム管理を学び撮影補助業務を理解する。				
授業終了時の到達目標				
1. 歯科疾患に応じたエックス線撮影の準備ができる。 2. 放射線の性質を理解し防護に考慮した撮影補助が行える。 3. 撮影後の現像処理やフィルム管理ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	久保典子：歯科医師として27年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし歯科放射線学の講義を行う			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ	内 容		
1	歯科医療と放射線	1) 歯科の画像診断 2) 放射線の性質 3) 放射線の人体への影響		
2	歯科医療と放射線	1) 歯科の画像診断 2) 放射線の性質 3) 放射線の人体への影響		
3	エックス線画像の形成	1) フィルムと増感紙 2) デジタル画像系		
4	歯科におけるエックス線検査	1) 口内法エックス線撮影 2) パノラマエックス線撮影 3) 頭部エックス線規格撮影 4) 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 5) パノラマエックス線撮影実際と歯科衛生士の役割		
5	歯科におけるエックス線検査	1) 口内法エックス線撮影 2) パノラマエックス線撮影 3) 頭部エックス線規格撮影 4) 口内法エックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割 5) パノラマエックス線撮影実際と歯科衛生士の役割		
6	写真処理と画像保管	1) 現像、定着 2) 自動現像機、処理液の管理 3) 写真の整理、保管、観察 4) 品質保証計画、機器の保守点検		
7	写真処理と画像保管	1) 現像、定着 2) 自動現像機、処理液の管理 3) 写真の整理、保管、観察 4) 品質保証計画、機器の保守点検		
8	特殊検査 まとめ・テスト	1) CT、MRI、US、造影検査など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学（医歯薬出版）		課題・レポート 期末試験	20.0% 80.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床検査学		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	選択	江口 寛
授 業 の 概 要				
歯科衛生士として、個々の病態を臨床検査というエビデンスを持って理解するため、臨床検査の基礎知識と、病気を持つ患者に対するうえで必要な知識を身につける。				
授業終了時の到達目標				
歯科衛生士として診断、治療、予後経過のエビデンスの根拠となる臨床検査について理解し説明できること。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	歯科医師として３０年の実務経験 これまでの歯科医師経験を生かし臨床検査学の講義を行う			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床検査とは	①臨床検査の倫理と安全、②検査の概要と検査成績の読み方		
2～3	生体検査	①体温検査、②脈拍検査、③血圧検査、④心機能検査、⑤肺機能検査、⑥筋電図検査、⑦脳波検査、⑧血中酸素濃度検査		
4～5	検体検査	①血液を用いる検査、②感染症検査、③病理検査		
6～7	口腔領域の臨床検査	①口臭検査、②味覚検査、③歯科金属アレルギーの検査、④舌の検査、⑤口腔粘膜の検査、⑥唾液検査、⑦歯周組織の検査、⑧歯の検査、⑨根管内細菌培養検査		
8	摂食・嚥下関連の検査	①摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト、②摂食・嚥下障害の検査法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
臨床検査（医歯薬出版）		確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科予防処置論Ⅲ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
1）超音波・エアスケーラー・エアフロウについての基礎知識、技術（超音波スケーラー）について 2）歯面研磨の基礎的理解と操作方法について 3）キュレットタイプスケーラーの基礎知識・適切な操作について				
授業終了時の到達目標				
1）超音波・エアスケーラーについての基礎知識、技術を身につける 2）歯面研磨の基礎的理解と操作方法を身につける 3）キュレットタイプスケーラーの基礎知識・適切な操作に身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士の資格を活かした業務経験をもとに歯周病予防、う蝕予防についての知識・技術を教授する。		
時間外に必要な学修				
授業前後の予習・復習を行う。				
回	テ ー マ	内 容		
1～2	歯面清掃用器具・器材	1）超音波と音波とは 2）エアフローとは 2）超音波スケーラー・エアスケーラーの種類と機能		
3～4	歯面研磨 基礎	1）歯面研磨 P T C P M T Cとは 2）歯面研磨 目的・手順・使用器具 研磨剤		
5～6	超音波スケーラー（下顎） *相互実習	1）赤染め後、沈着部の除去 2）患者への配慮 3）バキューム操作		
7～8	超音波スケーラー（上顎） *相互実習	1）赤染め後、沈着部の除去 2）患者への配慮 3）バキューム操作		
9	手用スケーラーの基礎知識	1）種類、使用部位、操作方法の違いを理解する 2）キュレットスケーラーの構造と名称		
10	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	3 3 番歯～4 3 番歯（唇側・舌側） 1）ポジショニング 2）操作角度・操作幅・圧		
11		1 3 番歯～2 3 番歯（唇側・口蓋側） 1）ポジショニング 2）操作角度・操作幅・圧		
12		1 4 番歯～1 7 番歯（頬側・口蓋側） 1）ポジショニング 2）操作角度・操作幅・圧		
13		2 4 番歯～2 7 番歯（頬側・口蓋側） 1）ポジショニング 2）操作角度・操作幅・圧		
14	確認試験（上下顎）	1）スケーラー番号 2）ポジション 3）マキシラ 4）固定 5）側方圧 6）操作幅・角度		
15	確認試験	記述試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯周病、う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康管理ができるように、専門的器具の取り扱い・知識・技術を習得する。		確認テスト 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
歯科予防処置論Ⅳ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	実習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	井口 和美	
授 業 の 概 要					
歯周病、う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康管理ができるように、専門的器具の取り扱い・知識・技術を習得する。 手用スケーラー（キュレットスケーラー）相互実習において、正しいポジショニングを理解する。 器具の管理（シャープニング）の基本を学び、スケーラー管理の重要性を学ぶ。 歯科診療中の偶発事故について理解し、対応について学ぶ。					
授業終了時の到達目標					
1）グレーシー操作・ポジションを理解し、相互実習が行える。 2）シャープニングの必要性、操作技術を学び、スケーラーの管理ができる。 3）歯科診療中の偶発事故について理解し、対応の手順が言える。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯周病予防、う蝕予防の技術・知識・態度を学生へ教授する			
時間外に必要な学修					
前回までの授業内容を振り返り、予習を行う					
回	テ ー マ		内 容		
1～2	キュレットスケーラー試験1 グレーシータイプ（相互実習）		1）スケーラー番号 2）ポジション 3）マキシラ 4）固定 5）側方圧 6）操作幅・角度		
3～5	キュレットスケーラー試験2 グレーシータイプ（相互実習）		1）スケーラー番号 2）ポジション 3）マキシラ 4）固定 5）側方圧 6）操作幅・角度		
6	シャープニング方法 基礎		1）意義と目的 2）使用器材 3）砥石の種類 4）潤滑剤（オイル）		
7	シャープニング方法 実習		グレーシー #5/6 #11/12 #13/14 シャープニング実習		
8～9	歯科診療中の、偶発事故		偶発事故の予防と対策 バイタルサイン 患者が起こりやすい事故 術者が起こしやすい事故		
10～11	実技試験		グレーシー操作 実技確認試験		
12～13	総合相互実習		プロービング、歯面研磨、超音波スケーラー		
14	まとめと確認テスト				
15	まとめと期末試験		まとめと確認テスト		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論			確認テスト 実習・実技評価 期末試験	20.0% 20.0% 60.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅲ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	近藤 ちづる
授 業 の 概 要				
1年次での基礎学習を踏まえ、対象の把握法・会話法・伝達法の基本を理解し、歯科保健指導で使用する各種媒体の作成要領や活用法を学び、それぞれのライフステージにあった歯科保健指導を体感することにより、歯科衛生士としての役割や職業に対する責任や使命感を認識してもらう。				
授業終了時の到達目標				
1. 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 2. 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 3. 各ライフステージ別の食生活指導ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	オリエンテーション		2年次で学ぶ歯科保健指導の概要について	
2～7	幼児対象集団歯科保健指導準備		1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 4. 発表	
8～11	臨地（保育）実習準備		はみがきカレンダー作成 集団歯科保健指導案の作成 媒体物の作成 練習	
12～15	小学生対象集団歯科保健指導準備		1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 4. 発表	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】		実習・実技評価 期末試験	20.0% 80.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅳ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	近藤　ちづる
授 業 の 概 要				
1年次での基礎学習を踏まえ、対象の把握法・会話法・伝達法の基本を理解し、歯科保健指導で使用する各種媒体の作成要領や活用法を学び、それぞれのライフステージにあった歯科保健指導を体感することにより、歯科衛生士としての役割や職業に対する責任や使命感を認識してもらう。				
授業終了時の到達目標				
1. 各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。 2. 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 3. 各ライフステージ別の食生活指導ができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	小学生対象集団歯科保健指導準備		1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 4. 発表	
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入		妊産婦期 1. 妊産婦期の一般的特徴 2. 妊産婦の口腔の特徴 3. 妊産婦の歯科衛生介入 4. 妊産婦の栄養 5. 妊娠期と授乳期の食事摂取基準 6. 妊娠期と授乳期の食生活指導	
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入		乳児期 1. 乳児期の一般的特徴 2. 乳児期の口腔の特徴 3. 乳児期の歯科衛生介入 4. 乳児期の栄養 5. 乳児期の栄養摂取 6. 乳児期の食事摂取基準 7. 乳児期の食生活指導	
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入		幼児期 1. 幼児期の一般的特徴 2. 幼児期の口腔の特徴 3. 幼児期の歯科衛生介入 4. 幼児期の食生活の特徴と栄養 5. 間食 6. 幼児期の食事摂取基準 7. 幼児期の食生活指導	

回	テ ー マ	内 容
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入	学齢期 1. 学齢期の一般的特徴 2. 学齢期の口腔の特徴 3. 学齢期の歯科衛生介入 4. 学齢期の食生活の特徴と栄養 5. 学齢期における食育の重要性 6. 学齢期の食事摂取基準 7. 学齢期の食生活指導
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入	青年期 1. 青年期の一般的特徴 2. 青年期の口腔の特徴 3. 青年期の歯科衛生介入 4. 青年期の食生活の特徴と栄養 5. 青年期の食事摂取基準 6. 青年期の食生活指導
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入	成人期 1. 成人期の一般的特徴 2. 成人期の口腔の特徴 3. 成人期の歯科衛生介入 4. 成人期の食生活の特徴と栄養 5. 成人期の食事摂取基準 6. 成人期の食生活と指導 7. 生活習慣病予防と栄養指導
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入	老年期 1. 老年期の一般的特徴 2. 老年期の口腔の特徴 3. 老年期の歯科衛生介入 4. 老年期の食生活の特徴と栄養 5. 高齢者の低栄養の要因 6. 老年期の食事摂取基準 7. 老年期の食生活指導 8. 摂食嚥下障害と栄養
10	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者 1. 要介護高齢者の一般的特徴 2. 要介護高齢者の口腔の特徴 3. 要介護高齢者の歯科保健指導 4. 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養 5. 要介護高齢者の食生活指導
11	配慮を要する者への歯科衛生介入	障害児者 1. 障害児者への一般的特徴 2. 障害児者の口腔の特徴 3. 障害児者の歯科衛生介入 4. 障害児者の食生活の特徴と栄養
12	配慮を要する者への歯科衛生介入	大規模災害被災者 1. 災害と避難施設 2. 災害時の歯科保健医療 3. 歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動 4. 災害時の多職種連携について
13	喫煙者に対する指導 ストレスマネジメント	喫煙者に対する指導 ストレスマネジメント 1. ストレッサー 2. 認知的評価・対処能力 3. ストレス反応に対する対処

回	テ ー マ	内 容		
14	口腔機能管理に関わる指導 生活習慣の指導	1. 口腔機能の発達に関連する指導 2. 口腔機能の低下に関連する指導 3. 非感染性疾患（NCDs）		
15	配慮を要する者への歯科衛生介入 相互実習	スポンジブラシの使い方（講義＆実習）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論【医歯薬出版株式会社】		課題・レポート 期末試験	10.0% 90.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅲ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1.50単位（46時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
臨床歯科医学に相当するさまざまな治療に対するアシスタントワークを学ぶ。 円滑なチーム医療を実現するための診療の補助について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる。 2. ラバーダム防湿を実施できる。 3. 歯肉圧排法と手順について説明できる。 4. 仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を説明できる。 5. 仮封材や仮着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる。 6. ワックスの特徴、種類、用途を説明できる。 7. 歯間分離法と目的について説明できる。 8. 隔壁法と手順を説明できる。 9. 暫間被覆冠の目的と作製の手順を説明できる。 10. 暫間被覆冠を作製できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床におけるさまざまな治療に対するアシスタントワークやチーム医療の場面 を教材として、診療の補助の知識と技術を指導する。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	（臨床実習前の確認）治療の流れと診療の補助		治療の流れと診療の補助	
2	ワックス		1. 基礎知識 2. ワックスの種類と用途	
3	歯間分離		1. 歯間分離の目的 2. 欠点 3. 器具の名称と用途 4. 手順	
4～6	隔壁法		1. 基礎知識 2. 種類 3. 手順 4. タッフルマイヤー型リテーナーによる隔壁法実習	
7	歯肉圧排		1. 基礎知識 2. 歯肉圧排（排除）用薬剤の種類 3. 歯肉圧排糸による歯肉圧排の手順 4. その他の歯肉圧排用材料	
8～10	仮封・仮着の補助		1. 基礎知識 2. 仮封材・仮着材の種類 3. セメント系の取り扱い 4. 水硬性仮封材の取り扱い 5. 仮封用軟質レジンの取り扱い 6. テンポラリーストッピングの取り扱い 7. サンダラックバーニッシュの取り扱い	

回	テ ー マ	内 容		
11～13	ラバーダム防湿	1. 目的 2. 利点・欠点 3. 器具の名称と用途 4. 手順 5. 臨床におけるケース		
14	暫間被覆冠	1. 目的 2. 準備物 3. 手順 4. 患者指導		
15～16	暫間被覆冠	既製レジン冠を使用する方法		
17～20	暫間被覆冠	直接法（即時重合レジン圧接法）		
21～22	共同動作実習・相互実習	1. 術者・補助者・患者のポジショニング 2. ライティング 3. フォーハンデッドデンティストリー 4. 器具の受け渡し 5. バキュームテクニック 6. スリーウェイシリンジテクニック 7. 印象採得 8. 咬合採得		
23	まとめ	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック（学建書院） 歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック（学建書院）		実習・実技評価	25.0%	
		期末試験	75.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
歯科診療補助論Ⅳ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1.50単位（46時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
臨床歯科医学に相当するさまざまな治療に対するアシスタントワークを学ぶ。 円滑なチーム医療を実現するための診療の補助について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
1. 各治療の特徴を説明できる。 2. 各治療の手順に沿った器材を準備することができる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床におけるさまざまな治療に対するアシスタントワークやチーム医療の場 面を教材として、診療の補助の知識と技術を指導する。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	印象採得・咬合採得		寒天印象採得の補助 咬合採得（ワックス）	
2～ 4	保存修復時の診療補助		1. 保存修復治療と診療補助の特徴 2. 保存修復治療の例と診療補助の流れ 1) 直接修復 2) 間接修復 3) 漂白法	
5～ 6	歯内療法時の診療補助		1. 歯内療法と診療補助の特徴 2. 歯内療法の例と診療補助の流れ 1) 歯髄処置（麻酔抜髄法） 2) 根管処置（根管充填）	
7～ 8	歯周外科治療の診療補助		1. 歯周外科治療と診療補助の特徴 2. 歯周外科治療の例と診療補助の流れ 1) 歯周外科治療時の業務 2) フラップ手術	
9～ 12	補綴治療時の診療補助		1. 補綴治療の例と診療補助の特徴 2. 補綴治療の例と診療補助の流れ 1) 遊離端部分床義歯 2) クラウン・ブリッジ 3) インプラント	
13～ 14	口腔外科治療時の診療補助		1. 口腔外科治療と診療補助の特徴 2. 口腔外科治療の例と診療補助の流れ 1) 抜歯時の業務 2) 普通抜歯 3) 難抜歯	

回	テ ー マ	内 容		
15	歯科麻酔時の診療補助	1. 歯科麻酔時の診療補助の特徴 2. 局所麻酔の基礎的知識 1) 疼痛・反射の抑制法 2) 局所麻酔薬の種類 3) 局所麻酔の適応と使用方法 4) 使用時の注意事項 3. 局所麻酔の例と診療補助の流れ 4. 吸入鎮静・静脈内鎮静の例と診療補助の流れ 1) 精神鎮静法の概要 2) 吸入鎮静の例 3) 静脈内鎮静の例 5. 全身麻酔での診療補助の流れ 1) 全身麻酔の概要 2) 全身麻酔の流れ		
16～ 19	矯正治療時の診療補助	1. 矯正治療と診療補助の特徴 1) 矯正治療に関する患者指導 2) 口腔筋機能療法（MFT）の診療補助 2. 矯正治療の例と診療補助の流れ 1) 矯正装置の装着 2) 矯正装置の撤去		
20～ 22	小児歯科治療時の診療補助	1) 診療時の配慮 2) 診療時のポジションとフォーハンドシステム 3) 小児の対応法 4) 局所麻酔 5) ラバーダム防湿 6) エックス線検査 2. 小児の治療の例と診療補助の流れ 1) 保存修復 2) 外傷		
23	まとめ	確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		確認テスト	20.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）		期末試験	80.0%	
歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）				
歯科衛生士のための保存科アシストハンドブック（学建書院）				
歯科衛生士のための補綴科アシストハンドブック（学建書院）				

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
総合演習Ⅰ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	演習	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	8回	0.50単位（16時間）	必須	四宮 直子	
授 業 の 概 要					
・これまでに学んだ歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助などの知識と技術を統合し、実際の臨床場面を想定した演習を行う。 ・実際の歯科医療現場で遭遇する可能性のある様々な症例や状況を想定し、より実践に近い形での演習を行う。 ・歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、その他の医療従事者との連携を想定した演習を取り入れ、チーム医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ・臨床場面で発生する可能性のある様々な問題に対して、適切な判断と対応ができるように、ケーススタディやグループワークを取り入れる。					
授業終了時の到達目標					
・歯科衛生士に必要な専門知識を体系的に理解し、説明できる。 ・様々な臨床状況における患者さんの状態を評価し、適切な対応を判断できる。 ・基本的な歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助を安全かつ正確に実施できる。					
実務経験有無		実務経験内容			
有		歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床におけるさまざまな症例や状況を教材として、チーム医療における歯科衛生士の役割と技術面を指導する。			
時間外に必要な学修					
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。					
回	テ ー マ		内 容		
1～2	概形印象採得、模型材（歯科用石膏）の注入		アルジネート印象材を使用し、概形印象採得を実施する 印象体に模型材を注入し模型を作製する		
3～4	各種セメント練和、仮封材の取り扱い		各種セメント練和を実施する 各種仮封材を使用し仮封する		
5～8	幼児対象集団指導		指導案作成の演習：テーマと対象年齢を設定し、グループワークで具体的な指導案の作成に取り組む 教材分析：幼児向けの歯科保健教材（先輩が過去に作成した教材など）を分析し、良い点や改善点などをグループで話し合う。 教材作成：グループで協力し、幼児向けの歯科保健教材を制作する（ペープサート等） 模擬集団歯科保健指導：学生同士で幼児役と指導者役に分かれて模擬集団歯科保健指導を行う。		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）			実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合演習Ⅱ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	0.50単位（16時間）	必須	井口 和美
授 業 の 概 要				
・ これまでに学んだう蝕予防処置（小窩裂溝填塞）についての知識を活かし、模型を使って填塞を行う。 ・ これまで学んだ歯周組織の基礎知識を活かし、個々の付着歯肉幅の測定を行う。 ・ 高齢者の特徴を理解し、車いす介助、身体介助の基礎を学ぶ。 ・ 高齢者の口腔を理解し基礎技術を学び、口腔衛生管理についての演習を行う。				
授業終了時の到達目標				
・ う蝕予防処置（小窩裂溝填塞）についての基礎知識を踏まえて、模型を使って填塞が行える。 ・ これまで学んだ歯周組織の基礎知識を活かし、個々の付着歯肉の測定を行い考察ができる。 ・ 高齢者の特徴が理解し、車いす介助を行い、介助の手順について説明できる。 ・ 高齢者の口腔の特徴を理解し、口腔衛生管理についての演習が行える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	う蝕予防処置論	小窩裂溝填塞の基本と手順 模型実習		
2	歯周疾患治療の流れ	基本治療と流れ 付着歯肉幅測定と考察		
3	高齢者への対応	車いす介助・移譲について		
4	高齢者への対応	車いす演習 視覚障害者への対応と演習 歩行介助		
5	介護用口腔衛生用品	洗口液・洗口剤の使い方 義歯洗浄剤・義歯安定剤種類と使用方法		
6	口腔衛生管理の基礎・演習	義歯清掃法 口腔粘膜の清掃方法（スポンジブラシ） 舌の清掃方法		
7	成人期の口腔の特徴	成人期の歯科衛生介入 周術期 口腔機能管理とは インプラント 歯周病とプラークリテンションファクター		
8	確認試験	総合演習 確認試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
高齢者・障害者歯科学 医歯薬出版 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版		期末試験	80.0%	
		課題・レポート	10.0%	
		実習・実技評価	10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合学習Ⅱ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
・ 歯科衛生士として必要な専門知識・技術の習得 ・ 歯科医院における事務・受付業務の基礎知識の習得 ・ 医療保険制度、診療報酬請求、患者対応など、歯科医療現場に必要な知識の習得				
授業終了時の到達目標				
患者対応に必要な知識とスキルを習得し、説明できる。 歯科衛生士として、医療事務に関する知識を身につけ、円滑なチーム医療に貢献できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における多様な業務経験を活かし、歯科医療の現場で必要とされる歯科衛生士の役割と知識を指導する。			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	カルテ、レセプトで使用する略称		カルテ、レセプトで使用する略称と正式名称 歯式と方向用語 歯根の数と根管の数 カルテの見方	
2	歯冠修復		歯冠修復の種類と算定法	
3～6	傷病による治療と算定		1. 硬組織疾患 2. 歯髄疾患 3. 歯周組織疾患 4. 軟組織疾患 5. 歯周疾患 6. 欠損補綴（ブリッジ、有床義歯） 7. その他の疾病	
7	医療保障制度		医療保険制度について	
8	まとめ		まとめ	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
総合学習Ⅲ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	四宮 直子
授 業 の 概 要				
歯科衛生士として必要な専門知識の習得				
授業終了時の到達目標				
各治療に係る基礎知識を理解する 各治療時の歯科衛生士の役割を説明できる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床における多様な業務経験を活かし、歯科医療の現場で必要とされる歯科衛生士の役割と知識を指導する。			
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	歯科臨床（保存修復）	保存修復治療に係る基礎知識		
2	歯科臨床（歯内療法）	歯内療法に係る基礎知識		
3	歯科臨床（歯周療法）	歯周療法に係る基礎知識		
4	歯科臨床（歯科補綴）	歯科補綴治療に係る基礎知識		
5	歯科臨床（口腔外科・歯科麻酔）	口腔外科治療・歯科麻酔に係る基礎知識		
6	歯科臨床（矯正歯科）	矯正歯科治療に係る基礎知識		
7	歯科臨床（小児歯科）	小児歯科治療に係る基礎知識		
8	歯科臨床のまとめ	歯科臨床のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版）		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	90回	4単位（180時間）	必須	
授 業 の 概 要				
学内で学んだ知識・技術・倫理（態度）を歯科医療現場で体験し、歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学ぶ。 歯科衛生士としての技術を習得し、あわせて医療従事者にふさわしい人格を養成する。				
授業終了時の到達目標				
①講義、学内実習で学んだ知識に基づいて患者との人間的な関わり合いを深め、患者のニーズに関する理解力や判断力を養う。 ②患者とのコミュニケーションを通じて、歯科医療における患者の心理に対して理解を深める。 ③歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ④指導者の指導のもとに、歯科医療の流れとそれに必要な診療補助技術を習得する。 ⑤指導者の指導のもとに、歯科予防処置ならびに歯科保健指導技術を習得する。 ⑥歯科衛生士としての職業倫理・社会的役割と使命感を養い、医療人としての態度を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
実習日誌・レポートをまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する				
回	テ ー マ		内 容	
1	前期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先）		各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける	
2～90	歯科医療機関にて臨床実習		各歯科医療機関ごとのプログラムに沿って臨床実習	
教科書・教材			評価基準	評価率
			実習・実技評価	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		歯科衛生士学科／2年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	113回	5単位（225時間）	必須	
授 業 の 概 要				
学内で学んだ知識・技術・倫理（態度）を歯科医療現場で体験し、歯科医療における歯科衛生士の役割を主体的に学ぶ。 歯科衛生士としての技術を習得し、あわせて医療従事者にふさわしい人格を養成する。				
授業終了時の到達目標				
①講義、学内実習で学んだ知識に基づいて患者との人間的な関わり合いを深め、患者のニーズに関する理解力や判断力を養う。 ②患者とのコミュニケーションを通じて、歯科医療における患者の心理に対して理解を深める。 ③歯科医療における歯科衛生士の役割を理解する。 ④指導者の指導のもとに、歯科医療の流れとそれに必要な診療補助技術を習得する。 ⑤指導者の指導のもとに、歯科予防処置ならびに歯科保健指導技術を習得する。 ⑥歯科衛生士としての職業倫理・社会的役割と使命感を養い、医療人としての態度を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有				
時間外に必要な学修				
実習日誌・レポートをまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する				
回	テ ー マ	内 容		
1	後期臨床実習 事前オリエンテーション（実習先）	各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける		
2～ 113	歯科医療機関にて臨床実習	各歯科医療機関ごとのプログラムに沿って臨床実習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨地実習Ⅰ		歯科衛生士学科／2年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位（45時間）	必須	
授 業 の 概 要				
【保育園における臨地実習】 幼児への口腔衛生活動を円滑に展開するために、発達段階および日常生活を理解し、その対応法を学ぶ。				
【高齢者施設における臨地実習】 高齢者の身体的・心理的特徴を理解し、QOLの向上と口腔機能の向上に必要な口腔ケアの技能、歯科治療での歯科衛生士の役割を習得する。				
授業終了時の到達目標				
【保育園における臨地実習】 1. 幼児や職員とコミュニケーションを図る 2. 幼児の人権・人格を尊重した対応をする 3. 幼児の口腔の成長、機能の発達について理解する 4. 幼児の発達および口腔に適した口腔清掃指導をする 5. 個人差があることを理解する 6. 幼児の生活全般にわたる安全に配慮する				
【高齢者施設における臨地実習】 1. 高齢者や家族、職員とのコミュニケーションを図る 2. 高齢者や家族の人権・人格を尊重した対応をする 3. 高齢者の身体疾患と口腔疾患、口腔機能を述べる 4. 口腔の健康管理に必要な知識・技能を習得する 5. 口腔ケアを実施する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
実習日誌をまとめる（毎日） 自己の行動を振り返り、新たな課題を発見する				
回	テ ー マ		内 容	
1	保育臨地実習 事前オリエンテーション（実習先）		各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける	
2～12	保育園にて臨地実習		各保育園ごとのプログラムに沿って臨地実習	
13	介護臨地実習 事前オリエンテーション（実習先）		各自、実習先にアポイントメントをとり事前オリエンテーションを受ける	
14～23	高齢者施設にて臨地実習		各高齢者施設ごとのプログラムに沿って臨地実習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価	100.0%	